



試されている

今月5日は立夏でした。立夏は、春分と夏至の中間にあたります。暦のうえでの夏の始まりで、立夏から立秋の前日までが夏になります。日差しが強くなり気温が高くなる日もありますが、暑くもなく寒くもなく、さわやかな過ごしやすい時期です。1年の中でもスポーツに汗を流し、レジャーに出かけたりするのに適した時期ですが、今年は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、5月6日までは山梨県も全国の都道府県と同様に、生活の維持に必要な買い物等を除き、『不要不急の外出』を自粛するよう要請されました。買い物についても、原則1人で、できるだけ空いている時間に短時間で済ませてほしい、という要請もありました。買い物等で出かけたときの街の様子は、買い物をしている人が少なく、小学生、中学生、そして高校生も全くと言って良いほど外出していませんでした。ゴールデンウィークになれば、観光地もある程度は人で賑わうのかと思っていましたが、報道等でわかるとおり、ほとんど人がいない状態でした。『不要不急の外出』の自粛を要請されているとはいえ、ゴールデンウィークにここまで外出する人が少ないとは正直思っていませんでした。これは、今の日本国民の、新型コロナウイルスへの感染に対する強い危機意識の表れだと思います。

最近、今、私達は正に『試されている』と感じることが多くなりました。様々な自粛要請が出されたことにより、普段当たり前に行っていたことが、自粛の対象になる。自分自身はもちろん感染したくないし、もし自分が感染すれば家族や職場の同僚も感染する恐れがある。ましてや、高齢者や持病を抱えた人がいれば、重篤なことになる可能性もある。このような様々な可能性を考え、行動を自制している人が多いのだと思います。本当に立派だなと感じています。



しかし、そうやって自粛生活を送っていても、一時は感染が拡大するばかりで、なんだか人間の存在そのものが、見えないウイルスの前にとても小さく感じてしまったほどでした。このような時だからこそ、私達の間人としての力が問われるのだと思います。これまで当たり前だったことが当たり前ではなくなったことに柔軟に対応し、決して悲観することなく、感染防止に努めながら心の笑顔を消さないことが、今、私達に求められているように感じます。

最近特に心配されているのが、新型コロナウイルスのため、不安と不満と恐怖が広がり、過剰に反応してしまう人達の行動です。例えば、営業している店舗に中傷する張り紙をしたり、マスクを求めてお店の人に強い言葉を投げかけたりするなど、通常であれば決してそのようなことをしないであろう人達が、思いがけない行動をするようです。その人たちの動機は、家族愛や郷土愛であり、防衛本能だと思います。しかし、世の中の大半がこのような行動を是とする風潮にな

れば、社会は混乱し私たちにとって、とても暮らしにくい世の中になるでしょう。ウイルス以上のさらに大きな悪影響が生まれる可能性さえあると思います。ウイルスからの体の攻撃にも、心への攻撃にも、私達は耐えていかなければならない。それ故に、今、私達の間としての力が『試されている』と感じています。

学校の再開の可能性が、少しずつ見えてきました。学校再開の時も、私達の間としての力が『試されている』時だと思えます。これまで当たり前だった学校生活と全く同じ生活は、しばらくはできません。そのことに柔軟に対応し、悲観することなく感染防止に努めつつ、決して心の笑顔を消さないことが、学校生活にも求められます。気持ちを一つにして、生徒、保護者、教職員が一丸となり、新型コロナウイルス感染防止という特別な対応をしながらも、子供たちにとってより良い学校生活になるように取り組んでいきたいと考えています。

淡々としなやかに

学校は学びの場であるとともに、人と安全・安心につながるができる居場所です。また、学校教育とは単に授業により知識を学ぶだけではなく、学校という場や地域社会で様々な集団活動を行い、多様な他者と関わりとともに、文化や社会と対話することを通じて人を育てる営みで、人との関わり合いや対話など、直接触れ合うことでしか得られない様々な気づきが、人を大きく育てる場だと思えます。

しかし、今の状況で学校が再開された場合、しばらくは集団活動や他者との多様な関わりについては、これまでと同様に行うことは新型コロナウイルスへの感染防止、ということを考えてと困難だと思えます。十分な感染対策を講じたうえで、できる限り多様な学びや他者との関わりができるよう、工夫していくしかないと思えます。これまで当たり前であった学校生活とは、必然的に違ったものになっていきます。



先日、政府の専門家会議から「新しい生活様式」の提言がありました。今すぐに、新型コロナウイルスの感染症が完全に収束するわけではありません。しばらくは、流行と収束を繰り返し、その状況に応じた生活を私達は送っていくのだらうと思えます。「新しい生活様式」の考え方は、新型コロナウイルスだけではなく、今後起こる可能性がある未知なるウイルスの流行や鳥インフルエンザから変異した新型インフルエンザの流行など、我々人間が今後直面する可能性があるこれらの危機への対応も考えながらの提言であると思えます。感染が穏やかになってきて、できるだけ通常の生活を送りながらも、再び感染拡大を起こさない生活様式。それが、「新しい生活様式」の考え方です。

学校を再開させるに当たっては、「新しい生活様式」と同様の考え方で作成したマニュアルに基づいた生活を送りながら、学習の保障と安全とのバランスをとっていくしかありません。13日に予定されている「家庭学習課題配布」の折りに、学校生活の過ごし方のマニュアルを配布するので、ご家庭でお子さんとともに一読いただき、感染防止に基づいた学校生活となるように、家庭でもご指導ください。これらの対策を『淡々としなやかに』実践しながら、その中でできるだけ楽しく、充実した生活を送っていく心構えと決意が、今私達に求められていると思えます。